

12 問題なのは、「何を求めての協働なのか!」、その全体像・課題共有の不在?!

堂本 彰夫

(1) 「協働」が必要なのは、みんな分かっている!だが、個別課題・取り組みの羅列だけではダメなのだ?!

過日、中央教育審議会が、目下の最重要課題である「教員の働き方改革」について、緊急答申(「質の高い教師の確保特別部会:教師を取り巻く環境整備について緊急的に取り組むべき施策(提言)~教師の専門性の向上と持続可能な教育環境の構築を目指して~)を出した!そして、そこには、私にとって、特に注目されるべきものとして、1. 学校・教師が担う業務の適正化の一層の推進に、(1)「学校・教師が担う業務に係る3分類」を徹底するための取組→「国、都道府県、市町村、各学校のそれぞれの主体ごとに、具体的な対応策の好事例を横展開」、2. 学校における働き方改革の実効性の向上等に、(1)地域、保護者、首長部局等との連携協働→「学校における働き方改革等を学校運営協議会や総合教育会議で積極的に議題化」があった。

それはともかく、私の聞き間違いであったのか、テレビ放送での、(部活動の?)「地域移行」による課題解決の方向性が五つに亘って示されている(だから、期待して調べてみたのもあるが!)というようなことはなかったが、一応、今現在、取り組み可能なことが、ほとんど網羅的に示されているとは言えるであろう?!ただし、それにしても、それらは、やはり予算的な裏付けがなければ(スタッフの拡充等)、なかなか実現は困難であろうと思われるものばかりでもあった(審議会委員のみなさんには申し訳ないが?)?!でも、あくまでも「緊急(提言)」ではあるので、それはそれで、よしとしなければいけないであろう?!

ということで、今ここで、改めて、その具体的な提案内容については、私がとやかく言うことはない(ある意味失礼でもある?)、私には、やはり?「残念なこと」がある!それは、相変わらず、従前の「学校(教育)」の枠組み・受け止め方を前提としており、これまで以上に?、他(外部)からの協力要請、それらとの連携・協力の必要性が叫ばれてはいるが、そこにおける取り組みや、その方向性が、新たな地平(パラダイム?)を求め切れていないように思われるのである?!

すなわち、そこには、「教員の働き方改革」という、新しい課題、新しい看板(キャッチコピー)が提示されてはいるが、そこに示されている「教員の働き方の問題」は、以前から指摘されてきたことであるし、何も忽然と現れた問題ではないということである(教員不足や指導時間の問題として騒がれ出したとは言えるが、それらは、まさに「学校の限界/制度疲労」の問題として危惧されていた?)!多少誇張して言えば、かの「生涯学習体系への移行」とか、「生涯学習社会の実現」とかは、実は、そういうことを超克するための施策スローガンでもあったということである(「社会教育」の世界だけの話ではなかったということである!)?!

そこで、改めて私がここで言いたいことは、いかなる「教育問題」においても、最早(と言うよりは、「原点に戻って」と言う方が的を射ている?)、そこに見出されていくべき最重要課題は、学校内外における「連携・協力」の必要性と、それを促進・実体化させるための全体的なしくみ、すなわち「(教育)協働のしくみづくり」への力強いヴィジョン提起であるということである!何故なら、そうした受け止め方、課題意識の方向性がなければ、これからの、「(学校)教育」におけるいかなる問題・課題も、その抜本的な解決には至らない?!だから、その時々個別課題・取り組みの羅列だけではダメだということである?!

(2) 求められる課題解決の方向性、その全体像?が見えていない?!だから、単発で、バラバラなものとなる?!

しかるに、繰り返すようであるが、その理由は、いたって簡単である?!学校は、社会における教育の専門(占有)機関ではあるが(そのように意図されて設置されている!)、絶えず変化していく時代状況に即応して、すべての教育機能(我が国においては、「家庭教育」の補完・肩代わりという機能も、大幅に担わされている!)をそこで発揮していくことは、理論的に(理想?)はともかく、現実的には無理なのである(そのために、「社会教育」と呼ばれる分野もあるわけであるが?)?!そこにおけるニーズが、多様化、高度化、分散化しているということが、それに拍車をかけているわけであるが、現状のままの枠組み(法制度及び人的体制)では、とてもそれに対応できない状態(段階)になってしまっているということである(それは、学校の宿命である?)!

ちなみに、例えば、今回の答申(「教員の働き方改革」と、やっとな?望まれる方向性を示したかに見える、「新しい教育課程」、あるいはそこにおける「地域学校協働活動」(CSや地域学校協働本部事業等)というような発想や取り組みは(これは、改めて注目されるものと思われるが!)、ぶち明け、どのように関わっているのか?最初に示した、私が注目した部分がそれに該当するわけであるが、少なくとも一部は(否、大いに!)、それに連動させての提案であるのかどうか?!他に、「チーム学校」、「アクティブラーニング」、「社会に開かれた教育課程」、「カリキュラムマネジメント」等のスローガン(新しい方向性?)は、今回の提案と、どのように関わっているのだろうか?!それらすべては、新たな、内外における「連携・協力」の促進と、それを

実体化させる「力強いヴィジョン」、すなわち「(教育)協働のしくみづくり」を求めているものであるが、その辺りは、一体どのようになっているのか？それが、実は、かの「総合教育政策」へのシフトなのでもあるが、先般の「部活動の地域移行」という表現(発想)からも明らかなように、今回も、従来の「学校観」「教育観」、さらには「地域観」から抜け出していないようにも思える？!

このように、ここでは、改めて、「新たな、内外における『連携・協力』の必要性と、それを導き出し・支える『(教育)協働のしくみづくり』が求められている！」ということを確認したいのであるが、何度も繰り返しているように、そこには、「学校」、「教育」、ひいては「地域」についての捉え方(現状認識)が、旧態依然のものであったり、適切な状況把握の下になされていないものであったりすれば、次から次へと、課題やスローガンが山のように押し寄せるばかりで、その多さに？辟易し、圧倒され、多くの人にとっては、何を、どのようにしていけばよいのかが分からなくなる(見えなくなる?)ということである！

ただし、もちろん、金銭面での手立てが、一時的、あるいは表面的な解決をもたらすことはあるであろう?!だが、たとえそうであったとしても、多分、多くの(心ある?)人は、その受容には、かなり複雑な思いが過るであろう?!というのも、人は、何のためにやっている(頑張っている)のか?その意義ややりがい(→実感・納得)がなければ(見失えば)、そこから遠ざかって(壊れて?)いく?!そこが、今、教育界が陥っている問題の本質とも言える(単なる労働時間の長短の問題ではないということである!)?!だからこそ、本当に必要な課題解決のための全体像(見取図)が必要だということである(個別・単発では、それが見えない!)?!

(3) 求められているのは、「教育全体における協働」であり、「学校に関わる協働」だけではない!

そんな中、本当は、その全体像?を求める動きは、始まっているとは言えるのである(→「新しい教育課程」、「総合教育政策」等)?!ただ、残念ながら、それが、「これが答えだ!」と、多くの人が実感していない(しようとしていない?それ故に、まだまだ、そこには確かな全体像(見取図)が共有されていない?)?!だから、今回の答申も、依然として、学校からの「地域移行」とか、「地域との連携・協力」ということでしか語れない?!そこに、まだまだ、その「新しい成果」が見えていない?!そういうことでもあるわけである?!

しかしながら、問題?は、それだけではない?!すなわち、そこには、一方の、地域の側(事実上は「社会教育側」!)の積極的な関わり、参画の方向性が見えて(or見込まれて)いないということである?!他ならぬ、移行、連携・協力を要請する側の「地域」に、そうした要請に応えられる状況、組織・人的態勢がどうなっているのかがよく知らされていないということもあろうが、実は、そちらの方も、変わってきている部分もあるのである(いくつか、ここでも紹介したこともある!)?!要は、双方の課題や成果を、より緊密に繋ぎ合わせるということが、これからは重要であるということであるが、そこで、今改めて必要なのは、「教育全体における協働」であり、「学校に関わる協働」だけではないという課題意識の共有だということでもある?!

しかも、現実の「地域」だけであれば、人々の、昔懐かしい生活共同体(コミュニティ)の姿・形はなく、そこに呼びかける移行、連携・協力などは、ほとんど「夢物語」となる(そこには、横/隣近所のつながり、助け合いの風潮などは、残念ながら、一部の例外?を除いて、ほとんど雲散霧消している?!だから、「地域の絆づくり」等が、社会教育の側から叫ばれてもいる!)?!「地域移行」とか「地域との連携・協力」といっても、地域の側も迷惑?な話となり、結局は、誰かの、あるいはどこかの、無理を承知の引き受けによってしか、実現しない?!だから、そこにある「学校」、あるいは「教育」、さらには「地域」の捉え方、課題共有の仕方が、双方の分野で整っていなければ、一部の人(組織)が大慌て、そして大半の人が見て見ぬふりをするだけとなるということである?!

以上、一見すると、当座の学校からすれば、教師の肩代わり?をしてくれる人を見つければ、それでよいということになるが、今や地域には、そうした一方的な支援を、快く引き受けてくれるような人はいないし、みんな、それぞれの生活に汲々としているということである(コロナ禍や異常気象、世界情勢の逼迫等が、それに拍車をかけている!)?!その意味もあって、私は、これまで、そうした「学校と地域との連携・協力」の課題を、「学校教育と社会教育との協働(「合力」の発揮)」という方向性と、それに基づく施策の総体という意味での「地域学校協働→教育協働」という枠組みを提唱してきたのであるが(→「まちづくりとひとづくりの循環構造図」)、それはまた、今回の「教員の働き方改革」をも包含するものと言いたいのである!

最後になるが、来る9月20日(土)のセミナー(沖縄県立玉城青少年の家と那覇市繫多川公民館との共催)では、同公民館の、近隣小学校との「分館活動」(公民館の職員が、「社会教育士」として、2日間当該学校に滞在して、教育活動に参画する)が紹介される!果たして、この取り組みが、ここで言う「教員の働き方改革」にもつながるものなのか?!私には、その答えは、十分過ぎるほど分かるのであるが、他のみなさん(世間?)はどうなのか?!そして、当該学校の校長(それに追従しなければいけない?教頭はじめ、中間管理職のみなさんも)はともかく?、一般の教員のみなさんは、「またしても、余計(過重?)なものを持ち込んできて!」と思っているのかどうか?!出来たら、その辺の実情(本音?)も、是非聞かせて欲しいものであるが…(つづく)